

# 地域企業・自治体による内製業務システムの運用保守に向けた運用監視システム「KadaMonitor/カダモニタ」

山本 遥希

香川大学 大学院創発科学研究科 / 香川大学 情報化推進統合拠点 DX推進研究センター

## 1. はじめに

- ・ 香川大学ではローコード・ノーコードプラットフォームを用いて業務システムの内製開発をおこなっている
- ・ 内製開発に用いるツールでは週に1回の通知メール、もしくはシステム管理画面にアクセスしなければ、システム障害の有無を確認することができなかった
- ・ 内製開発した業務システム（内製業務システム）でなんらかの障害が発生しても、ユーザーからの報告によって障害に気付くケースが多数報告されていた
- ・ 内製業務システムのSLOを「社会的に影響がほとんどないシステム」と定め、内製業務システムの保守品質が確保されているかを確認できるシステムとしてKadaMonitorを開発した

## 2. KadaMonitorの機能

KadaMonitorは、内製業務システムを対象に、以下の主要機能によってシステムの運用監視を自動化し、保守品質の向上を支援する

- ① 実行履歴取得・エラー通知機能：平日 8時～19時の間、毎時5分に対象システムの実行履歴を取得し、エラーが含まれていた場合は開発者や管理者に通知する機能。これにより、従来ユーザの報告に頼っていた障害検知を自動化できる。
- ② テスト実行機能：24時間以上実行されていないシステムに対し、自動的にテスト実行をおこなう機能。ローコード・ノーコード開発環境の特性に起因する不具合の早期検知を目的としており、運用前のエラー検出にも寄与する。2024年8月から2025年2月までに65回実行され、1件の障害を検知・即日改修された実績がある。
- ③ ダッシュボード機能：取得した実行履歴を基に、システムごとの稼働状況や成功率などを可視化する機能。業務システムの稼働傾向を日別・月別・経過月数別に確認可能であり、保守状態や活発度の把握に役立つ。



図1 KadaMonitorのエラー通知画面



図2 監視対象システム一覧画面



図3 日別実行状況画面



図4 経過月数別ログ件数一覧画面



図5 月別実行状況画面

## 3. 地域企業・自治体へのKadaMonitorデプロイプロジェクト

2025年度に、香川大学で運用されているKadaMonitorを株式会社タダノエンジニアリング（タダノグループ）様の環境にデプロイするプロジェクトを実施した



図6 プロジェクト計画書（一部）

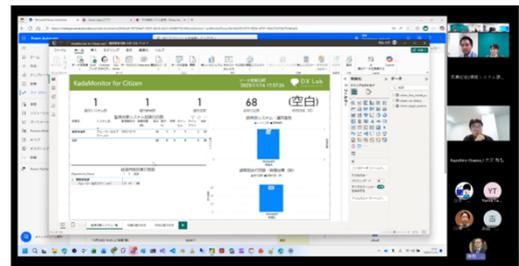


図7 デプロイ作業画面

## 4. まとめ

- ・ ローコード・ノーコードプラットフォームを用いて開発された内製業務システムの課題である保守品質を向上させるだけでなく、業務の進行状況や効率性のモニタリングによる生産性向上を実現する手段として、継続して検討する
- ・ 今後も企業や自治体と連携しながら、KadaMonitorを発展させていきたい